

平成 28 年 3 月 25 日
これからの学術情報
システム構築検討委員会

NACSIS-CAT/ILL の再構築について (案)

1. 再構築の必要性

NACSIS-CAT は昭和 60 (1985) 年 4 月のサービス開始以来順調に規模を拡大し、現在では接続機関数は 1,263 に上り、その結果として構築されたデータベースは図書書誌レコード数約 1,150 万件、図書所蔵レコード数 約 1 億 3,000 万件を擁する大規模なものとなっている。また、平成 4 (1992) 年 4 月に開始された NACSIS-ILL による文献複写件数はピーク時 (平成 17 (2005) 年度) の 6 割以下にまで減少したものの依然として 60 万件以上 (平成 26 (2014) 年度) に上っており、今なお必要不可欠なサービスとして大学図書館の機能を支えている。

しかし、サービス開始から 30 年以上が経過するなかで、電子ジャーナルをはじめとする資料のデジタル化と流通の変化、これらの電子情報資源を中心とする利用および利用者の選好の変化、それに目録データのウェブ上での共有の進展などにより、いかに増大する多様な情報資源に効率的に対処し、国内的にも国際的にもデータの相互運用性を確保していくかが問われるようになっている。

NACSIS-CAT は、基本的に印刷体の図書・雑誌の目録データベースを共同構築するシステムであり、現状では大学図書館において大きな比率を占める電子情報資源に適切に対応できていない。したがって、大学図書館および国立情報学研究所が電子情報を含む学術情報資源全体を適切に運営できるよう、これまでの NACSIS-CAT の機能をあらためて再検討し、今後のシステムのあり方について提案することが求められることとなった。

2. 検討の経過

本委員会では、大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議における「平成 32 (2020) 年には現在のような枠組みでの目録システムは終了していることを想定した議論」の要請を受け、上記の事項に関し外部機関による運営等のさまざまな選択肢を含め幅広く議論を行い、NACSIS-CAT の仕組みが引き続き必要と判断した。そして、特に電子情報資源への適切な対応のための資源 (人的資源、システム資源、経費を含む) の確保のために必要と考えられる NACSIS-CAT の軽量化・合理化について、平成 27 (2015) 年 7 月の「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」において設置が認められた「NACSIS-CAT 検討作業部会」に詳細な検討作業を付託し、その報告をもとにさらに検討を行ってきた。

その結果、本委員会としては、運営側と参加組織側の両面でより一層の業務負担の軽減

が図られ、限りある資源を効率的かつ有効に活用できる方式として、以下の方式による新システムへの移行を提案することとした。

なお、今後における電子情報資源への対応や作成されるメタデータ等の活用のあり方については、「電子リソースデータ共有作業部会」および本委員会において引き続き検討を行う。

3. 今後の方向（「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針）（案）」を参照）

・ 提案の概要（図1参照）

平成32（2020）年度のシステム更新を目途に、システム面、運用面で次のような改訂を実施する。また、そのために平成28（2016）年度より順次、準備作業を進める。

- 1) 外部機関作成書誌データの活用を前提とするワークフローの改善
- 2) 外部機関作成書誌データに合わせた書誌レコードの階層構造の変更
- 3) 名寄せ機能の実装、典拠データの自動リンク形成等による機能強化

・ 期待される効果

本提案の実施により期待される効果は、次の通りである。

- 1) 外部データ作成機関との書誌データ共同利用の可能性の向上
- 2) 外部システムとの連携によるNACSIS-CATデータベースの付加価値の向上
- 3) 参加機関ならびにNIIにおける書誌データに関連する作業全般の省力化

・ 運営組織の体制

本提案の実現にあたっては、「書誌レコードの作成基準」等の基本方針、マニュアル、広報資料等の整備が欠かせないことから、計画の実現段階および運用段階に入っても、大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下にしかるべき組織を設置し、引き続き運用支援を行うこととする。

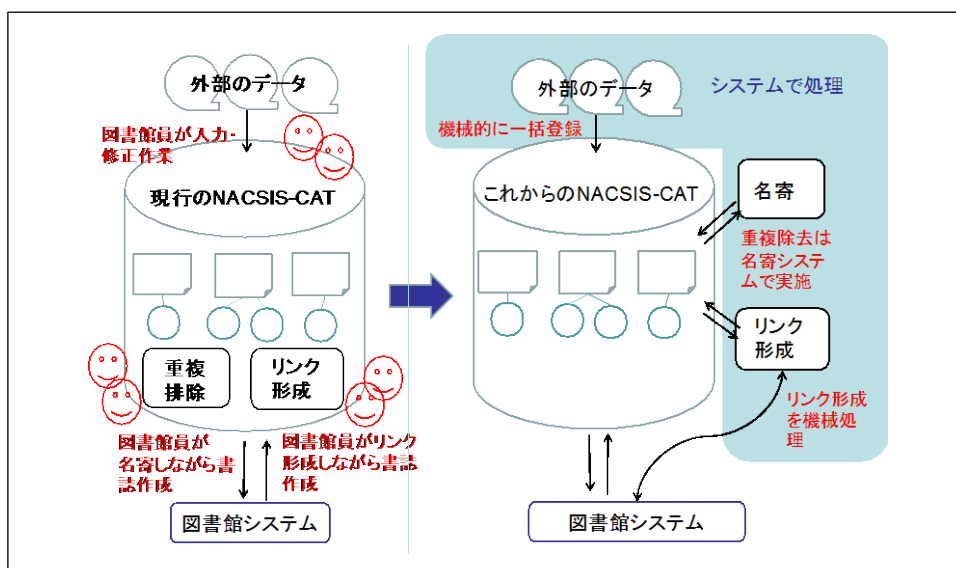


図1. 軽量化・合理化のイメージ